

1 ・ 全 般	1. 貴社のビジネスの特徴や強み、あるいは同業他社と比べて優れている点を記載してください。	
	<p>産業用ロボットを中心としたロボット設備、各種F Aシステムを企画、設計、製造までを一貫して行っている。</p> <p>産業用ロボットと協調して動作するロボットスライダー、被加工物を最適な姿勢に回転させるポジショナーを創業時より開発、製作しており、現在ではロボットシステム全体を取り扱っており、国内はもとより、アジア、欧米諸国等へ納入している。</p> <p>ロボットを扱うことにより培った、サーボ技術、センシング技術に加え、画像処理等を使ったF Aシステムも多く手がけており、各種検査ライン、梱包ライン等の納入実績を持っている。</p> <p>近年では、これまで積み重ねた実績をもとに、ロボット化が進んでいなかった業種への提案等を積極的に行っており、納入実績も増やしている。</p>	
	取り組み開始時期	今回の応募における成果につながる取り組みの開始時期を記載してください。 平成（ 26 ）年 （概ね5年以内の取り組みとしてください）
2 ・ 課 題	2. I T 経営に取り組んだ時点での、市場や顧客動向、競合他社の動向など企業を取り巻く環境の状況《外部環境》、および社内で解決すべき問題の状況《内部問題》について記載してください。	
	<p>当社では、毎回異なる生産設備を設計、製作しているため、発注業務が非効率である。</p> <p>また、他社と比べて製品納入に手間取っている。</p> <p>CADデータに関しては、CADデータの共有化が遅れており、複数の設計者による共同作業が出来ていない。</p> <p>原価集計に手間取っている。</p>	
3 ・ 計 画 (P)	3. 上記項目 2. の現状認識をもとに、達成目標を決定した経緯及び具体的な計画を記載してください。	
	<p>当社の生産形態に適していると思われる、基幹となる生産管理システムを導入する。</p> <p>導入に際しては、ほぼノンカスタマイズで導入する。</p> <p>また、分析ツールを利用して各部署がほしい情報を集計できるする。</p> <p>このシステムの導入により、発注業務の効率化を図り、短納期化の実現を目標とした。また、個別の集計を容易にし、協力会社ごとの比較等を行うことによって、コスト削減を目指した。</p> <p>さらに、発注、受け入れ業務の効率化により、新規協力会社の模索などへの工数シフトを目標とした。</p> <p>設計部門に関しては、データの共有化を進め、効率UPを目指した。</p> <p>CADデータに関しては、オートデスク社製のVaultシステムを採用し、CADデータの共有と、複数の設計者による共同作業をしやすくし、作業効率の向上を図ることとした。</p> <p>また、出図の際に使用する部品表に関しては、設計が使用しているEXCELデータから生産管理シテムに取り込むCSVへの変換作業を容易にするシートを新たに製作することで、従来の作業性を大きく変えることなく、生産管理システムに取り込めるように計画、データを調達部門と共有可能とする。</p> <p>原価集計については、手書きの発注書、日報等を表計算ソフトに入力しなおしていたものを廃止。</p>	

『全般』には、現時点での事業の特徴を記載してください。
同業他社と比べて優れている点や、他社にない固有のビジネスモデルや、経営におけるこだわりがあれば、その点についても記載してください。
事業を理解する上で必要であれば、現在に至る経緯（沿革）等を書いてください。
サービス系の事業においては、誰（対象とする顧客）にどんなサービスを提供しているのかを、明示的に書いてください。

《自由記載》
IT経営に取り組んだ時点（過去）で認識していた、貴社を取り巻く外部環境や貴社内で解決すべき問題（内部問題）を記載してください。

《自由記載》
IT経営に取り組んだ時点（過去）で認識していた、貴社を取り巻く外部環境や貴社内で解決すべき問題（内部問題）、および、それを踏まえて掲げた達成目標を具体的に記載し、IT経営に取り組んだ経緯と目標を紹介してください。
達成目標を実現するための方策として、目標の詳細化も含めて、目標実現と方策の関係を具体的に記載してください。
・事業活動のベースとなるIT利活用について（セキュリティ等を含む）
・経営判断支援を目的としたIT利活用について
・顧客獲得を目的としたIT利活用について
・競争力強化をねらいとしたIT利活用について
など

補足として記載してください。（経営計画策定における事実把握の内容。経営計画の文書化や共有の状況など。）

おかやまIT経営力大賞 応募用紙B(実践内容)

4・実行(D)

4. 上記3. で設定した達成目標を遂行するための具体的活動内容を記載してください。

IT活用で実践した内容

資材発注業務、工程管理、の部門で生産管理システムを導入した。
従来、手書きの発注書、製作指示書で発注、製作を行ってきたが、すべてを生産管理システムに置き換えた。これに伴い、加工工程の作業日報を廃止し、バーコードによる管理を採用した。これにより、発注、入荷業務の効率アップが図れ、さらに、加工途中の品物がどこの部門にあるのかが明確になった。
原価集計については、生産管理システムでの出力が可能となった。
また、システム化した分析ツールにより、各部署の必要な項目を集計できるため、製品ごと、工程ごと、仕入先ごとの集計、比較することにより、製作コストの削減が可能となった。
製作時に図面と同時に出図する図面リストについても、現状のフォーマットを変更することなく、容易にCSV形式に変換できるプログラムを作成し、データも調達部門共有している。

IT活用以外で実践した内容

- ・ 調達部門での仕入コスト低減
- ・ 図面の共有化、部品の共有化、名称の統一化

《自由記載》
計画に対しての活動状況を記載して下さい。
・事業活動のベースとなるIT利活用について（セキュリティ等を含む）
・経営判断支援を目的としたIT利活用について
・顧客獲得を目的としたIT利活用について
・競争力強化をねらいとしたIT利活用について
など

《自由記載》
IT利活用以外で目標達成に貢献してものがあれば記載して下さい。

5・IT経営推進の取組

5. I T 経営推進の取り組み状況を記載して下さい。

経営トップの取り組み姿勢

自らプロジェクトの指揮を執った。

部門のキーマンの取り組み姿勢

積極的に課題に対してチャレンジし、部下の状況を的確に把握していた。

IT経営革新のための会議運営、イベントなどの工夫、支援施策制度の活用状況

月 1 回経営革新会議を開催し、課題解決にあたっている。

IT経営の成功要因の分析状況

月 1 回経営革新会議の中で常に評価している。

《自由記載》
I T 活用・投資の取組に関わる社内体制及び人材の活用状況を記載してください。

・経営トップ方針と全社一丸での推進について
・的確な役割分担と推進運営について
・社内の人材活用について
・外部人材や支援施策制度の活用について
・成功要因の分析状況

6・評価(C)

6. それぞれの成果内容を、開始時点と比較して定量的、定性的に具体的に記載ください。

(定量的成果の内容) …売上増大、利益増大等数字で表す。

年度	売上額 (百万円)	経常利益 (百万円)	利益率 %
H27	750	159	21.2
H28	812	79.1	9.7
H29	1,149	240.4	20.9

売上推移
売上額は3年でおおよそ 1. 5 倍となっており、生産管理システム導入により、効率アップと納期短縮が可能となり、受注増につながったものと考えられる。

(定性的成果の内容) …社員のモチベーション向上、サービス内容の充実等数字で表せない成果。

- ・ 工程進捗管理ができるようになり、作業効率が向上した。
- ・ IT化と新工場移設が重なり、優秀な人材確保ができたため、多くの受注をすることができた。
- ・ ファイルの共有化により、標準化という認識が高まり、部品の共通化、情報の統一化などができた。

《自由記載》
IT経営に取組んだ時点から、成果が得られた現時点までの概ね3年間での比較で、定量的成果、定性的成果をそれぞれ記載してください。

・経営計画で目標とした売上・利益についての定量的成果について
・既存事業分野について実現目標とした取り組みテーマについての定量的成果について（例えば、顧客数、取扱数、売上比率変化等）
・新規分野への進出について実現目標とした取り組みテーマについての定量的成果について
・経営計画で期待した定性的な成果や従来からの変化の面での成果について

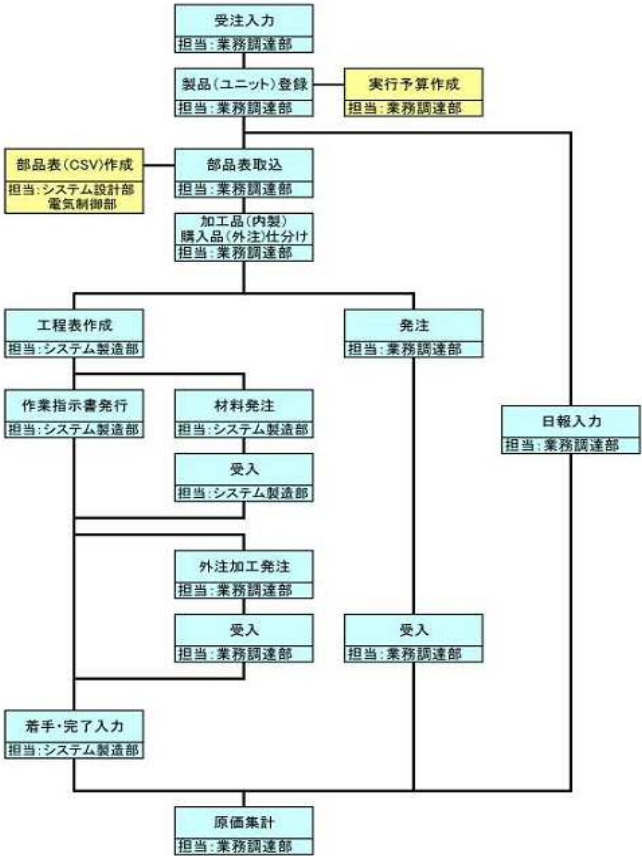
7・技術的な特徴	<div>7. I T活用において、先行する技術の活用など先進性、独創性があれば記載してください。</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 生産管理システムパッケージをほぼノンカスタマイズで活用している。 出図の際に使用する部品表に関しては、設計が使用しているEXCELデータから生産管理システムに取り込むCSVへの変換作業を容易にするシートを新たに製作し、従来の作業性を大きく変えることなく、生産管理システムに取り込めるようにし、データを調達部門と共有するようにした。 </div>
8・今後の課題（A）	<div>8. 今後の課題及び計画を記載してください。</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> 工場の増設・社員増加を踏まえ、職場間でのコミュニケーション促進を図るため、グループウェア導入を平成30年度に計画している。 更なる納期短縮を目指し、平均3ヶ月のリードタイムを平均2.5ヶ月に平成31年度中に達成する。 </div>

《自由記載》
 I T活用において、先行する技術の活用など先進性、独創性があれば記載してください。

《自由記載》
 I T活用において、今後の課題及び計画を記載してください。

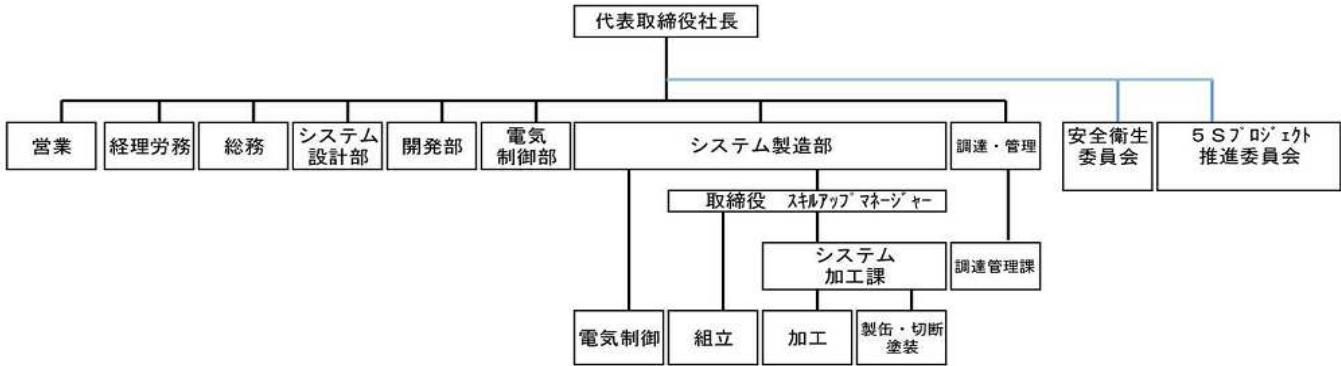
おかやまIT経営力大賞 応募用紙B(実践内容)

【1. IT活用概念図】 ※業務フロー、システム概念図等、事業全体と取組対象業務やシステム全体と応募事例でのIT活用の関係がわかる図を添付してください。
 (空白ページに貼り付けてください。最大5頁の制限を超えても構いません)



《自由記載》
 IT活用の関係がわかる図を添付してください

【2. 組織図】 ※組織図（概略図）があれば添付してください。
 (空白ページに貼り付けてください。最大5頁の制限を超えても構いません)



《自由記載》
 組織図（概略図）があれば添付してください。